



いちようっ子

～ 夢いっぱい 笑顔いっぱい 共に生きるいちようっ子 ～

＜学校教育目標＞ 児童数384名

強く - 心身ともに強く、鍛える子
正しく - 深く考え、進んで学ぶ子
美しく - 思いやりがあり、感動する子。



運動会の見所は？

校長 上岡 勝

連日、暑い日が続いていますが、子どもたちは休み時間になると、校庭の芝生の上を友だちと元気に走り回っています。そんな子どもたちの姿を見ていると、つい自分も走ろうかなと思うほど元気が湧いてきます。子どもたちの一生懸命な姿、全力の姿は、いつ見ても気持ちが良く、心を動かされます。

さて、現在、9月19日（土）の運動会に向けて、学年ごとに練習を行っています。先日、ある学年の徒競走の練習の様子を見ていたのですが、多くの子がゴールの手前でスピードを落とすため「ゴールまで走り切って！」という担任の声が何度も聞こえてきました。また、中には笑いながらゆっくり走り明らかに真剣さが感じられない子もいました。見ていてとても残念な光景でした。そんな時、最終コーナーで転んでしまった子がいました。もちろん、みんなすでにゴールをしています。しかし、その子はすぐに立ち上がり、歯を食いしばりながらゴールラインの先まで全力で走り切っていました。少し足を痛めたのか、片足を引きずっていたようにも見えました。その子の姿や表情からは、最下位でもゴールまで走り切るんだ、という強い気持ちが伝わってきました。とても美しい光景でした。感動しました！

この時ふと思い出したのは、忘れもしない1992年バルセロナオリンピックの男子400m準決勝です。このレースでは、日本人の高野 進選手が4位に入り、400mで日本人初のファイナリストに残りました。しかし、私が感動したのは、高野選手ではなく、5レーンを走っていたイギリス代表のデレク・レドモンド選手です。150m付近で右太ももの肉離れを起こしながらも右足を引きずりながらゴールに向かい、最後の100m付近では父親が息子に肩を貸して一緒にゴールをした場面です。激痛に顔を歪めながらも、まっすぐに前を見てゴールに向かうその姿に、世界中の人が感動の涙を流し、その後CMにもなりました。



9月19日（土）の運動会、子どもたちには、一つ一つの種目に力を抜くことなく、最後まで全力で取り組ませたいと思います。もちろん練習も同様です。保護者の皆様には、ぜひ、全力でゴールを走り抜ける子どもたちに、また、転んでも失敗をしても全力で最後までやり遂げようとする子どもたちの姿に、大きな拍手をお願いします。見所は、順位や結果だけではありません。子どもたちの全力の姿、必死に頑張る表情こそが一番の見所です。残念ながら今年度は縮小した運動会となります。だからこそ、例年以上に感動的な運動会にしたいと思います。